

# 予防医学・臨床疫学

科目責任者 小橋 元  
学年・学期 4学年・前期

## I. 前 文

臨床疫学における診断と治療の「根拠 (evidence)」は、臨床疫学研究により作られる。根拠に基づく医療 (Evidence-Based Medicine (EBM)) の技法は、臨床専門医にとってはもちろん、地域医療を担う総合診療医師にとっても必ず身につけておかねばならないものである。一方、人の集団を扱う疫学の素養は、臨床研究及び公衆衛生分野の研究を目指す場合に、独力で研究の発案、遂行、解析ができるようになるための基本的なものである。本講義および後半のデータ解析実習で扱う内容は、学生諸君が将来どのような領域に進んでも必要となる貴重な知識と技術である。

ぜひ、研究データの向こう側にいる人々の姿をイメージしながら、ぜひ主体的、積極的に取り組んでほしい。

## II. 担当教員

教授	小橋 元	公衆衛生学
教授	春山 康夫	公衆衛生学
准教授	大谷 直由	日光医療センター 循環器病センター
准教授	小松 渡	公衆衛生学
准教授	遠藤 源樹	公衆衛生学
講師	松原 優里	公衆衛生学
講師	小笠原 健	基本医学 基盤研究部門
助教	阿部 美子	公衆衛生学
特任教授	岩田 昇	大学院看護学研究科
教授	西連地 利己	看護学部看護医科学 (基礎) 領域
非常勤講師	大木 いずみ	埼玉県立大学
外部講師	中村 好一	宇都宮市保健所

## III. 一般学習目標

・ 予防医学・臨床疫学の考え方と基本的な方法論を理解し、疫学の諸指標の計算方法及びその意義を学ぶ。また、それらが公衆衛生・臨床医学における種々の健康問題を解決することにどのように役立っているかを講義と実習によって学習すると共に、社会人、医師の基本素養としての根拠に基づく医療 (EBM) について学ぶ。

## IV. 学修の到達目標

- 1) Evidence-Based Medicine (EBM) について説明できる。
- 2) 臨床疫学について説明できる。
- 3) 疫学の諸指標の概念及び計算方法を把握する。
- 4) 文献検索方法を把握する。
- 5) 疫学の方法論について説明できる。
- 6) 疫学研究実践法について説明できる。
- 7) 研究倫理について把握する。
- 8) 実際に行われた疫学研究データの統計解析方法を把握する。
- 9) 研究の社会実装について説明できる。

## V. 授業計画及び方法 \* ( )内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ, 知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
 6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブラーニング
1	4	13	月	4	予防医学概論	小 橋 元	1
2		13	月	5	疫学指標, 研究方法 (1)	春 山 康 夫	1
3		20	月	1	疫学指標, 研究方法 (2)	遠 藤 源 樹	1
4		22	水	1	臨床研究と治験	大 谷 直 由	1
5		22	水	2	循環器疾患の疫学と予防	中 村 好 一	1
6		22	水	3	スクリーニングテストと指標	阿 部 美 子	1
7		22	水	4	年齢/交絡調整法	遠 藤 源 樹	1
8		22	水	5	根拠に基づく医療 (EBM) 概論	小 橋 元	1
9		30	木	1	がんの疫学と予防	大 木 い ず み	1
10		30	木	2	統計学の復習	小 橋 元	1
11		30	木	3	データ解析実習 プレ講義	松 原 優 里	1
12, 13		30	木	4, 5	データ解析実習	松原, 小橋, 春山, 遠藤, 小松, 阿部, 岩田, 西連地, 小笠原	4

## VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

原則として, 定期試験 (80%), 講義中の小テスト・レポート, 出席状況等 (20%) によって総合評価する。

## VII. 教科書・参考図書・AV 資料

### 教科書

- はじめて学ぶやさしい疫学 南江堂  
 読んでわかる! 疫学入門 大修館

### 参考図書

- 臨床疫学 医学書院MYW  
 公衆衛生がみえる メディックメディア  
 疫学マニュアル 南山堂

## VIII. 質問への対応方法

- ・原則的には, 講義の中で対応する。
- ・担当教員に連絡し, オフィス・アワーもしくは指定された日時に質問に行くこと。

連絡先: 公衆衛生学講座 (総合教育研究棟11階/TEL: 0282-87-2133, e-mail: pubhealth@dokkyomed.ac.jp)

月~金曜日 (祝日を除く) 8:30~17:00

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	◎
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の内容については非公開。レポートのフィードバックは課題による。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊参照。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。